

河原の希少な固有植物と特定外来生物

元大島で夏の向けて花が咲く河原の固有植物

ともに日当たりのよい乾燥した砂れき地（砂と石ころの場所）に生育する河川環境特有の植物です。

カワラサイコ



カワラヨモギ



元大島で固有植物の生育を脅かす特定外来生物

オオキンケイギク



■キク科 多年草

■原産地域：北アメリカ

オオキンケイギクが群生する場所ではその圧倒的な鮮やかさに目を奪われるほどですが、繁殖が広がると背の低い植物は日光が当たらず、生息場所をなくしてしまいます。

駆除にあたっては、種子が飛散する前の6～7月頃に根こそぎ抜き取るのが効果的で、根を残すとまた生えてきます。

■生態系に関わる被害（環境省ホームページより抜粋）

天竜奥三河国定公園にある天竜川では、1976年に確認されたオオキンケイギクが最近急速に分布を広げ、代表的な帰化植物としてお花畑を形成し、上流のほぼ全域で見られるようになった。それとともに長野県固有のツツザキヤマジノギクや、カワラニガナ、ツメレンゲ、カワラサイコなどの河川敷固有の植物が減少または消失している。さらにタコノアシやミクリなどの貴重な植物への影響も懸念されている。

河原の固有植物を保全するため、地域の皆様といっしょに植物の見分け方を学びながら駆除体験を行います。

当日は、特定外来生物を悪者にするのではなく、希少な固有植物の保全という観点で、専門家の指導を仰ぎながらオオキンケイギクの駆除体験を実施します。